

令和5年度 第一回横浜市学校保健審議会会議録	
日 時	令和5年5月24日(水) 午後7時00分から8時55分まで
開 催 場 所	横浜市庁舎18階 みなと6・7会議室
出 席 委 員 11名	油谷 由美、天貝 徹、荒木 敏哉、梅澤 秋久、大久保 辰雄、片山 里美、 佐藤 みのり、佐藤 豊、鈴木 裕子、竹原 浩太郎、物部 博文
欠 席 委 員 0名	
開 催 形 態	公開(傍聴者0人)
決 定 事 項	1 会議録の確認者は鈴木委員に決定した。
議 事	<p>1 会長及び副会長の選出 横浜市学校保健審議会条例第5条第1項及び第2項に基づき、横浜市学校保健審議会会長は物部委員に、副会長は鈴木委員に決定する。</p> <p>2 会議録確認者の指名 横浜市学校保健審議会運営要領第6条第2項に基づき、会議録の確認者は鈴木委員に決定した。</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 学校関係者に関する新型コロナウイルス感染症の感染状況及び感染対策、CO₂モニターの設置について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度及び令和5年4月1日～5月7日までの学校関係者に関する新型コロナウイルス感染症の感染状況及び感染対策 ・令和5年5月8日からの学校における新型コロナウイルス感染症対策 ・各クラスの場所や場面に応じて効果的な喚起を行うことができるよう、全市立学校の全クラスに二酸化炭素濃度が測定できるCO₂モニターを設置したことについて報告した。 <p>(2) 令和5年度ゲーム障害・ネット依存に関する事業について (事務局)</p> <p>令和2年10月に横浜市立小中学校において実施した児童生徒に対するゲーム障害・ネット依存に関する実態調査について、実態調査結果の検討・分析等を目的として横浜市学校保健審議会の中にゲーム障害に関する部会の設置について、部会の提言を受けて具体的な対応の検討を進めるために教育委員会事務局内で設置したプロジェクトチームについて、令和4年度及び令和5年度の取組について報告した。</p> <p>(3) 学校安全部会について (事務局)</p> <p>学校安全部会の開催状況について報告した。</p>

4 審議事項

(事務局)

報告事項「学校関係者に関する新型コロナウイルス感染症の感染状況及び感染対策、CO₂モニターの設置について」で説明のとおり、5月8日から学校では基本的な感染症対策と、フェーズを上げた流行期における感染症対策と、段階を分けて対応を行っていくこととしているが、児童生徒の学校内での今後の感染症対策として注視していくこと、児童生徒の指導・ケア等、対応について意見を求めた。

(審議会委員より出された意見)

- ・感染対策等の対応については、国が示した内容が盛り込まれた衛生管理マニュアルに書いてあるとおりに思う。学校教育は、一人ひとりが自由になる力を育成する場であると同時に、他者の自由を相互に承認し合う態度を育成する場であるので、マスクの着用についてもお互いに認め合うことが大切だと思う。一方で、感染症以上に怖いのは、熱中症や息こらえ状態が長く続くことだったりすると思われるので、その点は呼びかけを行う方がよいと思う。
- ・子どもの人権という観点からいっても、自由、それぞれの判断を尊重するということの方が大事。一方で、ウイルス自体はまだ無くなっていない状況の中、元々マスクは他人にうつさないために着用を求められたので、外したことで、自身や周囲の人への感染リスクが上がる恐怖によって外さない判断をする子どももいると思う。感染状況を見つつ、その判断も尊重していかなければいけない。一律に外すのが絶対正解とも言えない状況ではないかと思う。
- ・普段マスクは着用していないが、同室内に着用している方がいると心理的に快適なので着用している。そのため、着用している方を見て自身も着用してしまうことについて悪いことではないと思う。ただ、同調圧力が働いて仕方なく着用している子どもがいるかもしれないので、そういう場合には外すよう呼びかける対応がよいと思う。
- ・衛生管理マニュアルについて、平時と流行期に分けて注意事項が書かれているのは分かりやすく、現場での指針としても適切だと思う。だが、流行期の「大声での会話を控える」については、感染リスクは下がるが、音声で感染が伝播するわけではなく、音楽の授業等で歌えなくなるので再考の余地があると思う。それ以外は、流行期でも様々な学びの場所や生徒のコミュニケーションで内容を変容させないような指導をしつつ流行に対応するという、相反する話だが、できると理想的だと感じる。
- ・これから暑くなるので、特に外で遊ぶ子どもたちは自然とマスクを外すのではないかと思う。もし、着用したまま遊んでいて顔が上気している子どもがいたら、周りの先生たちが外すよう声掛けすることで外す子どもも増えるのではないかと。給食も島をつくって食べられるようになったので、自然の流れで元の学校生活に戻っていけばよいのではと思う。

- ・最近、小学校の授業に入らせていただいた。低学年の子どもはほとんどマスクをしていないが、高学年の子どもは、登下校時は着用していた。2年生の授業に入ったが、30人学級中約10人が着用していた。その10人が目立つ訳でもなく、子どもたちも自然に外していつている印象だった。
- ・例えば、欧米は口元で感情を読み取って信頼関係を築く傾向があるが、日本は誰かに慮って周りに合わせるという文化がある。それはそれでよい文化、価値観だと思うので、個人に任せている中で自然とフェードアウトしていくのを見守るのが適切ではないかと思う。
- ・日本と欧米ではマスクに対する考え方や対応に違いがあり、日本は世界と歩調を合わせていく必要があるのではないかと考えている。日本の慎重な対応はプラスに動いたと思うが、不安に引きずられる傾向があるので、誰かがマスクを外してよいとの号令をかけないと、今後問題になってくるのではと感じている。病院等はいつまでも外せないのではと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったということは、インフルエンザと同等のリスクであるということ国が言っているということ。予防接種や治療薬もあるので、以前とは違うというメッセージを発信するべきではないかと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症が流行する前も、様々な理由でマスクを外せない子どもがいた。個人の考えを尊重することはある程度あってよいが、社会全体としては、これからの時期、熱中症の心配もあるのでマスクを外していく流れを強めた方がよいと思う。
- ・方針的には、国が出している方針でもあるし、マスクの着用を無理に求めないし、個々の判断に任せるといったものはよいと思う。
- ・私のところに相談してくる学生の中で、過去の経験が尾を引いており、同調圧力よりも自己肯定感が下がっていることで自信を持って人前に出られない学生が多くいると感じた。子どもによって事情は異なるが、一部の子どもの中には感染症とは関係ない理由で、マスクを外すことができない子どもがいるのではないかと思う。学級活動など様々な学校での活動を通して、一人ひとりの子どもが大切にされ、お互いを認め合うような風土をつくれるようにしていき、子どもたちの自己肯定感を高めるような教育を、より一層、意識的にやっていくということが大事だと思う。
- ・一部の子どもたちだと思うが、保護者の考え方の強い影響下にあるために、みんなが外しているけど外せない、逆にマスクを着用すべきところで外したいと言う等、周りと同じようにできない子どももいるかもしれないと思う。それぞれの事情や考え方に応じて、強要はせず、温かく見守ることをこれからも続けていくしかないのだろうと思う。

5 その他

横浜市市有地を活用した中学校給食事業における運営事業者選定評価委員会の設置について

(事務局)

	<p>横浜市中学校給食事業では、令和8年度からの全員給食の実施に向けて、デリバリー方式により全生徒・教職員分の約83,000食の供給体制を確保していく。このうち約30,000食については、市有地を活用して工場を新設することで供給体制を確保することとしており、工場整備及び令和8年度からの調理・配送業務を担う運営事業者を公募型プロポーザル方式により募集・選定していく。そこで、公募型プロポーザル実施要領の内容及び運営事業者の評価選定に関して調査審議するため、横浜市学校保健審議会の部会として、横浜市市有地を活用した中学校給食事業者選定評価委員会を設置する旨を説明した。</p>
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員名簿 ・横浜市学校保健審議会条例 ・横浜市学校保健審議会運営要領 ・横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱 ・学校関係者に関する新型コロナウイルス感染症の感染状況及び感染対策について ・令和4年度ゲーム障害・ネット依存に関するプロジェクトチームの実績報告について ・横浜市記者発表資料「横浜市立小中学校児童生徒に対するゲーム障害・ネット依存に関する実態調査」の報告書が提出されました。」 ・学校安全部会について ・学校におけるインフルエンザ／新型コロナウイルス感染症対応マニュアル ・横浜市市有地を活用した中学校給食事業における運営事業者選定評価委員会の設置について
<p>特 記 事 項</p>	<p>次回開催予定：令和5年度中</p>